

2005年3月23日

世界銀行「バイオ炭素基金」への出資について

住友化学は、世界銀行が設立したバイオ炭素基金へ2017年までに合計250万USDを出資することといたしました。これにより、2017年までの13年間で約40万炭素クレジット^{※1}の獲得が期待できます。

バイオ炭素基金は、森林保全、植林、バイオ燃料などのプロジェクトに投資し炭素クレジットを獲得することを目的として世界銀行が2004年5月に設立した基金で、京都議定書で定めた京都メカニズム^{※2}のうち、途上国を対象とした「クリーン開発メカニズム」(Clean Development Mechanism^{※3})と先進国同士で行う「共同実施」(Joint Implementation^{※4})を活用したものです。また、この基金は炭素クレジットの獲得だけでなく、プロジェクトを通じて自然環境保全、途上国の生活基盤の向上など広く環境・社会へ貢献するものであるため、出資を決定しました。

住友化学は、化学技術の革新を通じて社会にとって有用な製品を環境にやさしくかつ経済面でも効率的に提供することで、持続的な発展に貢献していくことを経営の最重要課題の一つと位置付けています。なかでも環境保全については、徹底した熱の回収・利用、コンビナート内でのエネルギー合理化への積極的な取り組み、高性能触媒の発明による副生物を発生させない革新的な生産プロセスの開発などにより、二酸化炭素の削減に取り組んでまいりました。今後、こうした企業努力に加え、京都メカニズムなどの仕組みも活用しながら引き続き地球温暖化防止に向けた取り組みを積極的に推進していきます。

以上

※1 炭素クレジット

温室効果ガス削減を目的としたプロジェクトを実施し、その結果生じた削減・吸収量に応じて発行される排出権のことで、これを削減目標達成に利用することができる。

※2 京都メカニズム

温室効果ガス削減をより柔軟に行うために京都議定書で制定された経済的メカニズム。日本のようなエネルギー効率が低い国では、自国のみでの削減には限界があることから、他国での削減実施に投資を行い、削減された量またはその一部が自国の排出削減量として認められることになっている。

※3 Clean Development Mechanism (CDM)

京都メカニズムの1つで、先進国が発展途上国と協力して温室効果ガス削減のプロジェクトを行い、削減・吸収された量（炭素クレジット）をプロジェクト参加者間で分け合う仕組み。

※4 Joint Implementation (JI)

京都メカニズムの1つで、先進国同士でプロジェクトを行い、削減・吸収された量（炭素クレジット）をプロジェクト参加者間で分け合う仕組み。